

### いい剪定わるい剪定

「サクラ切るバカウメ切らぬバカ」といいますが、樹種によって最適な剪定方法は異なります。今回は樹木剪定時の注意点について特集します。

樹木を剪定する目的は様々ですが、大きく以下の3つに分けられると思います。まず、①美しい樹形を保つといった美観上のもの、②倒木を防ぐといった実用上のもの、③風通しを良くし病虫害を防ぐ、花芽の成長を促進するといった生理上のもの、です。

まず最初に注意すべきは“剪定期期”です。適期以外に剪定を行うと、樹体への負担が大きくなり、樹勢が低下して場合によっては枯れてしまうこともあります。

時期の設定に関しては以下の3点について考慮する必要があります。

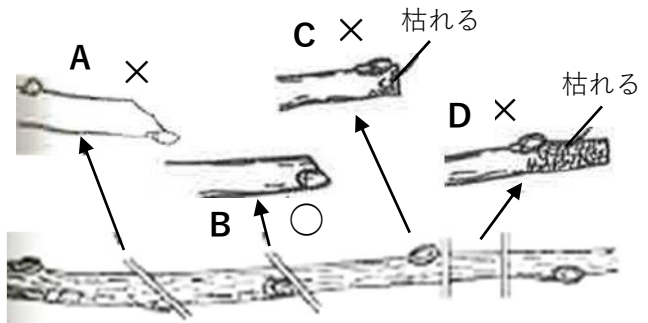
- ①蓄積された物質等の損失や消費が少ない時期であること、
- ②剪定された箇所が癒合が早い時期であること、
- ③花木であれば花芽分化が行われる前の時期であること

これらをふまえた樹種別の剪定適期は以下の表のようになります。

また、剪定は大きく整枝剪定と整姿剪定に分けられます。**整枝剪定**（冬期剪定、基本剪定）では、樹木本来の樹形を残しながら骨格・配置を決定します。**整姿剪定**（夏期剪定、軽剪定）

では、繁茂した枝葉を整えます（※切りすぎ注意）。

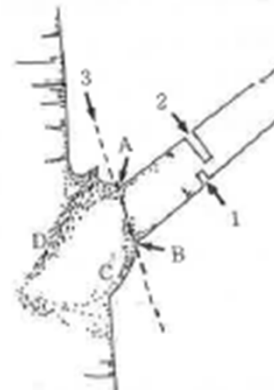
#### ▼枝の剪定方法（切り詰め剪定）



- ×A芽の上すれすれで剪定すると、乾燥で芽が枯れる恐れがある
- B芽の上部を少し残して芽の反対側に傾斜をつけて剪定する
- ×C枝に対して直角に剪定すると、芽の反対側が枯れこむ
- ×D芽と芽の中間で剪定すると芽の部分まで枯れこむ恐れがある

#### ▼太い枝の剪定方法

※アメリカの植物病理学者シャイゴ博士が提案した方法



枝の付け根のふくらみCはブランチカラー、枝の叉にあるDはバークリッジ（樹皮隆起部）と呼ばれ、樹木が持つ腐朽菌への防御機構のため、剪定の際は傷ついたり切断しない様注意する。

- ①枝が裂けない様、1・2の切れ込みを入れる
- ②3の点線部分で（AからBにかけて）切断
- ③切断面に殺菌癒合剤を塗布する

表. 樹種による剪定期期

| 樹種  | 剪定期期   |
|-----|--|
| 針葉樹 | 真冬を避けた <b>10～11月</b> か <b>春先</b><br>※マツ類は強剪定すると樹勢を弱めることがあるため注意する                             |
| 常緑樹 | 春の新芽が伸び生長が休止する <b>5～6月頃</b> か初秋に枝が伸びて再び成長が停止する <b>9～10月頃</b><br>※「樹種によっては切断部位が寒気や乾燥でダメージを受ける |
| 落葉樹 | 新緑が出そろって葉が固まった <b>7～8月頃</b> か、落葉した <b>11～3月頃</b>   |
| 花木  | 春に芽が伸びて花芽をつけ、その年の内に開花する樹種 → <b>秋から翌春の萌芽前</b> に行う<br>アベリア、キョウチクトウ、サルスベリ、ハギ、ムクゲ                |
|     | 5～9月頃花芽を分化・形成し、翌春開花する樹種 → <b>花の終わった直後</b> に行う<br>アジサイ、ウメ、ツバキ、レンギョウ、ツツジ類                      |

参考：中島宏（2004）「緑化・植栽マニュアル」経済調査会



- 病患部を削り取った後の傷口、剪定・整枝・環状はく皮時の切り口などに本剤を塗布することにより、速やかに耐雨性の安定した殺菌保護皮膜が形成されます。
- 塗布部分における木質部の亀裂、雨水や雑菌の浸入を防ぎ、新しいカルス（ゆ合組織）の形成を促進、病害の感染を防ぎます。
- 日焼け、凍害、つる直しなどによる傷口に予防的に塗布すると、病原菌の侵入を防ぐことができます。

- 有効成分：チオファネートメチル 3.0%
- 毒性：普通物
- 包装：200g/本、1kg/缶

- ▶ 使用の際は刷毛などの適切な用具で塗布してください。※使用後の道具は水でよく洗ってください。
- ▶ 1kg容器は使用直前によく攪拌してください。
- ▶ チオファネートメチルを含む農薬の総使用回数は5回以内です。

| 適用作物名 | 適用病害名（使用場面） | 適用作物名                 | 使用方法 |
|-------|-------------|-----------------------|------|
| 樹木類   | 切り口や傷口のゆ合促進 | 剪定整枝時、病患部削り取り直後、病枝切除後 | 塗布   |
| きり    | 腐らん病        | 剪定整枝時、病患部削り取り直後       |      |
| さくら   | てんぐ巣病       | 病枝切除後                 |      |

※スペースの都合上、適用の一部だけを記載しています

バイオシュートEX

バチルス菌の酵素でサッチを分解



- サッチの減少により、土壌処理型除草剤の効果の向上が期待できます。
- 土壌の透水性、通気性が高まります。
- 植物の発根を促進し、植物が本来持っている抵抗力を高めることで、病害の予防に繋がります。

- 一般名称：微生物サッチ分解資材
- 内容成分：バチルス菌（生芽胞）  
5X10<sup>9</sup>cfu/g配合
- 包装：500g/袋、10袋入り/ケース
- 施用目安：0.2~0.4g/m<sup>2</sup>  
(水量200~500ml/m<sup>2</sup>)

- ▶ 日中の地温が10℃以上で使用してください。
- ▶ サッチが多い場合は、春と秋の2回散布が効果的です。